



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
【HP】 https://www.chibumura.ed.jp/

二学期を終えて 校長 熊本直宏

八十二日間の二学期も今日で終わりです。自ら立ちゆく「知・徳・体」の調和のとれた知夫の子ども育成をめざし、授業づくりとふるまい、一番、知夫小中の強みを生かすことを考え取組んできました。「自分を鍛える」をキーワードに進めてまいりましたが、特にふるまい一番は、新生徒会がいさつ運動に取組むなど、子ども達の意識の高まりが見られています。また、音楽会、よさこいソラン、ふるさと学習発表会を小中合同活動とすることで、一貫校としての強み・よさを体感した二学期でもありました。めざす子ども像について二学期を振り返ります。

○自ら学ぶ意欲もつて、考えたり調べたりする
多くの授業研究を積み重ねることで、教員の授業改善を進めることができました。基礎・基本の定着をめざして小学部では、学力パワーアップ月間、計算・漢字大会を新たに取入れました。家庭学習の定着をめざし、手引きを作成し、参観日の啓発活動を行いました。また、図書館の積極的活用、島前三島のA.L.Tを招いてのハロウィンパーティー、島前高生とのキャリア学活等行うことで、学ぶ意欲の高まりが見られました。進んで学習に向かう子どもの姿が見られるようになりました。

○思いやりの気持ちを持って友だちを大切に
清掃活動や交流給食、わくわくデー等の縦割り集団活動、音楽会や壮行式等、小中の交流活動を増やしました。異学年の子ども達が関わることで、特に上学年の子ども達の思いやりの心が育ちました。また、毎月自分が頑張ったことを振り返る「がんばったカード」の掲示を行い、自己肯定感の高まりをめざしました。今後は、道徳の授業や教育相談を充実させ、めざす姿に近づきたいと思えます。

【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

○難しいと感じることも強い心と体で挑戦し、やりきる

テニス新人戦での個人戦アベック優勝、七年ぶりの駅伝大会混成の部優勝と成果が現れました。子ども達の日々の努力もさることながら、部活動経営会議、テニス部OBを招いての赤壁戦、メンタルトレーニング講習会、開星高校陸上部との合同練習等、計画的な取組みが実を結びました。今後は、ボランティア活動に力を入れるとともに、メディア啓発や就寝時刻等の取組みに力を入れ、健康な体作りの土台となる生活習慣の向上をめざしたいと思えます。



○知夫のよさを体感し、よさを伝える

九年中で育てるふるさと教育をめざし、九年間を入門期・初期・中期・後期の四期に再構成し、取組みました。ふるさと発表会を新たに小中合同での開催とし、九十名近くのお客様に来ていただきました。三学期の中学二年生の子どもの議会、中学三年生の子どものプレゼン発表が楽しみなところ。今後は、地域行事への参加を促すとともにふるさと教育で身に付けるべき力を明確にしながら進めていきたいと思えます。



最後に、明日から冬休みになります。交通安全や事故防止について学校でも指導しますが、ご家庭、地域での子ども達の見守りをお願いします。二学期の教育活動への多くのご支援、ありがとうございました。

地域の皆さんに見守られ 知夫ふるさと学習発表会

十一月二十三日、「知夫ふるさと学習発表会」を実施しました。小学一年生から中学一年生までが、知夫について調べたり考えたりしたことを発表しました。ここには、九十名を超える地域の方に来ていただき、たくさん感想をいただきましたので、紹介します。



〔地域の方の感想から〕
毎年楽しく意識のある発表ですね。地域の人もこの発表会に出席し、何とも言えない和やかな雰囲気を感じました。皆さん、本当によく学んでいてますね。知夫について知らないことをいつも教えてください。ありがとうございます。これからもこの活動が続きますように。

ふるさとのいろいろなことを調べて、知夫のことが好きになってくれればいいと思います。海、山、体験、景観スポット等、まだまだたくさんあります。いろいろな体験してほしいと思います。

子ども対子どもの質疑応答が活発で、大人も見習いたいと思いました。あとは、いろいろな課題に対して自分が「これをする！」と決めたことをやり通してほしいです。その経験は、将来自分がかくじけそうになった時に、自分の味方になってくれますから。

子ども達の様々な発表を聞くことができ、とても面白かったです。とはいえ、こうして発表や数々のアイデアを笑って聞き流すだけでなく、何も無い今だからこそできる内に実践したいです。島の生活が多様で豊かなものにしていくチャンスであり、この上ないきっかけになり得る力を、子ども達の発表から感じました。

頻回の放送、地域の方との関わりによる発表、休日の発表会ということでも例年になく見学・参加者が多かったと思います。とても良いことだと思えました。

◎先月号で学習発表会について、生徒の感想を掲載しました。地域の方から、掲載していた植物の名前に間違いがあるとの指摘をいただきましたので訂正します。
間違い「アカネガシラ」↓正解「アカメガシ」

みんなで賑やかに 親子給食

十一月三十日(金)、PTA行事である「親子給食」が開催されました。今年度は、中学部三年生の総合的な学習の時間に行っている「知夫ふるさと食プロジェクト(PJ)」の中間発表の場でもあり、この「親子給食」に中学部三年生が考案した「知夫ふるさと食」が提供されました。

当日は、二十四名の保護者の方々にご参加いただき、中学部三年生からの定食の説明や思いを聞きながら、知夫ふるさと食を味わっていただきました。多くの保護者の方々に、この定食に関する感想や意見をアンケートに記入していただいたことで、今後の学習につなげていけるよい機会となりました。



〔知夫ふるさと食PJメンバーの感想より〕
私たちは、総合的な学習の時間に「知夫ふるさと食」を考えています。メニューの作成から試食会(交流給食)に至るまで、たくさんの方のアイデアや意見を出し合ってきました。私たちの考えた知夫ふるさと食を、たくさんの方や学校の方が食べてくださいました。当日は、調理員さんがいつもより多く来て、たくさんの方の人数分の給食を作ってくださいました。

試食してくださった方には、アンケートに協力していただきました。アンケートでは、定食の見た目や味に関する感想やアドバイス、ネーミングの募集を行いました。その中には「インパクトがある」という感想がある一方、食材の調達方法や手間についての意見も多くありました。これらの意見を検討し、さらに自分たちの思いを込めた知夫ふるさと食を考えていきたいです。私たちは、ホテルのメニューになって多くの知夫の方や観光客の方に食べていただきたいと考えています。



各地区でお世話になりました 蛇巻き (ジャーまき)

十一月二十八日、各地区で蛇巻きが行われ、本校の児童・生徒が参加させていただきました。蛇巻きは、その年の豊作に感謝し、新たな年の無病息災を祈る行事です。大人の方の音頭で、みんなが手を添えながら蛇巻きを進めていく姿に地域の伝統文化の重みを感じました。参加した子どもたちからは、「知夫の良さがわかった」「伝統行事を守り、伝えていきたい」などの感想が聞かれました。保護者・地域の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

〔中学生の感想より〕
地域のひとと料理を楽しくできて良かったです。あいさつも自分からできたし、これからも参加し続けたいです。地域のひとに、蛇巻きの歴史のことなどを聞くことははずかしくて聞けなかったけど、これからはもっとたくさん参加して、少しずつ知っていきたいです。そして、たくさん地域の行事を守っていき、楽しい交流をしていきたいです。

僕はわらを束ねたり、実際に蛇を巻いたりしました。蛇を巻くことは、とても力がいりました。また、地域の方と交流ができて良かったです。たくさんのお話をしました。とても楽しかったです。でも、もっと積極的に作業をすれば良かったと思います。来年は、最後になるので積極的に行動します。そして、地域の方へのあいさつも忘れずに、しっかりとします。また、この行事を守っていくことが大切だと思いました。

朝九時の集合に行くとき、地域の方々は朝五時から作業を始め、私たちが来たときにはすでに準備ができていました。手伝うことができません。今回は血を配ったり、座布団を敷いたりするだけだったけど、朝五時からがんばりたいです。大人になったら、



小中一貫校の
強みを活かす⑦

月 日 曜日

少人数 ※本校の取り組みについて ～人数が少ないからこそ大切にできる～

9～11月号の校報に続き、今月も【知夫小中学校の強み】として「少人数」を取り上げます。「少人数」であることが、知夫小中学校にとってどのような強みとなっているのか、教職員で考えました。挙げた考えをまとめると下記の通りでした。

一人ひとりが大切にされる	一人ひとりに丁寧な指導ができる	「分からない」を少なくできる
一人ひとりに深い理解をさせることができる	一人ひとりが主役になれる	様々な体験ができる
他学年の友達と深く関われる	密な人間関係が構築できる	縦割り班活動が多くなり、上級生の活躍の場が増える
発言する力がつく (発言の場が多い)	体力がつく	人とのつきあい方が学べる (折り合いをつける力)

今月号では、網かけの部分について紹介します。網かけの部分については、島留学生にインタビューしました。島留学を選んだ理由は、「今年度、知夫小中学校に来てくれた児童・生徒だからこそ、規模の大きい都会の学校との違いを感じ、知夫の子ども達が“あたり前”となってしまう部分を“あたり前ではないもの”として捉えているのではないかと考えたからです。インタビューで3人が話してくれたことを紹介します。

一人目 [一人ひとりが主役になれる・様々な体験ができる・体力がつく編]

全校児童が約1000人の学校から来ました。その学校では、陸上大会は代表の人が出ていて、この学校のように全員が参加することはありません。知夫小中学校では、自動的に全員が選手になります。島留学をしてすぐに全隠岐陸上大会があり、無茶苦茶走らされて、もう歩けないくらいクタクタになっていました。今では少し、速く走ることができるようになりました。



二人目 [一人ひとりに深い理解をさせることができる・一人ひとりが主役になれる編]

以前の学校では、授業が止まることはなく、一人ひとりに丁寧に教えてくれるようなことはありませんでした。でも、知夫小中学校では、授業で「分からない」と困っていると、目を向けてもらえます。例えば、社会科の授業でプリントをしていて手が止まっていると、先生が何分かけてでも教えてくれます。そうすると、「ああ。」と理解ができ、宿題でも理解して解くことができるので助かります。

三人目 [一人ひとりに深い理解をさせることができる・密な人間関係が構築できる・発言する力がつく (発言の場が多い) 編]

前の学校に比べると、知夫小中学校に来て数学で点数が取れるようになりました。以前の学校では、人数が多くて「分からない。」と言うことが恥ずかしかった。でも、ここだと「分からない。」が言えます。人数が少なく、友達との絡みが強くて深い。例えば、誰かが誰かが「遊ぼう。」と話していて、そばで聞いていたら「あなたも来るでしょ!」となる。ここには1年間しかいないことにはなりますが、同窓会などと呼んでくれるのではないかと思います。



3人の島留学生からいろいろな話を聞いて、本校の良さをあらためて捉えることができました。今後も、もっと話を聞きながら児童・生徒・教職員に知夫小中学校の強みを伝えたいと思います。

お礼 ありがとうございます

〔その一〕
十一月三十日、PTA行事である「ピッカピカ大作戦」を行いました。五回目を迎えた今回は、体育館の清掃を計画しました。参加していただいた保護者は、二十一名。親子で声をかけ合いながら作業に取り組み姿勢は微笑ましく、また保護者の方が手際よく作業を進める姿は圧巻でした。お陰で、普段できない部分が大変きれいになりました。親子の活動を通して、子どもたちは学んだことも多かったと思います。ご協力をいただいた保護者の皆様、ありがとうございました。



〔その二〕

知夫村郵便局より、小学部の児童に年賀はがきをいただきました。(小学部児童に三枚ずつ、合計六十枚)
今年度、生活科や総合的な学習の時間などで、たくさんの方にお世話になりました。主には、そういった方々に送る年賀状として活用させていただこうと考えています。

また、この年賀はがきを郵便局に提供して下さったのは、「知夫村社会福祉協議会様」「海福丸様」「下廣畜産様」です。
このような機会をくださった郵便局員の皆様、はがき提供に際して資金を提供してくださった皆様、ありがとうございます。



本年もたくさんの保護者・地域の皆様にお世話になりました。ありがとうございました。2019年もよろしくお願致します。